

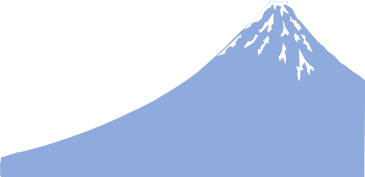
2026年9月 治安情勢

トリニダード・トバゴ及び当館管轄国

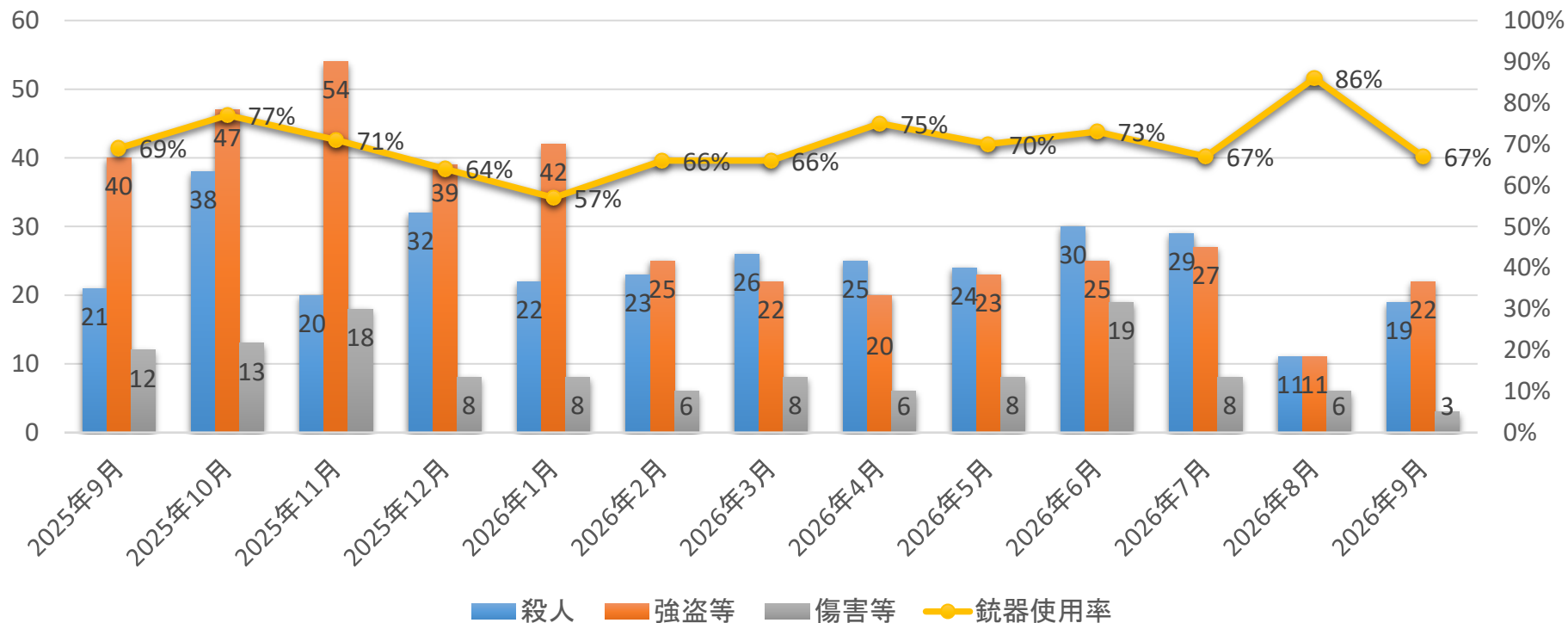
在トリニダード・トバゴ日本国大使館

管轄国別 犯罪発生件数（2026年9月）

	国名	殺人	強盗等	傷害等	誘拐	性犯罪	銃器 使用率
1	トリニダード・トバゴ	19	22	3	1	0	67%
2	ガイアナ	9	3	3	2	0	47%
3	グレナダ	0	0	0	0	0	0%
4	スリナム	0	5	3	0	0	75%
5	セントビンセント	2	0	0	0	0	100%
6	セントルシア	4	0	0	0	0	75%



犯罪発生推移（トリニダード・トバゴ）



9月中の犯罪発生状況は、前月（8月）と比較して殺人件数（11件→19件）および強盗等件数（11件→22件）の双方が増加に転じています。銃器使用率は67%と前月よりやや低下したものの、依然として全体の約7割で銃器が使用されており、住居侵入強盗や治安悪化地域でのギャング抗争等に対する厳重な警戒が必要です。

些細なトラブルが致命傷へ

極めて高い銃器使用率

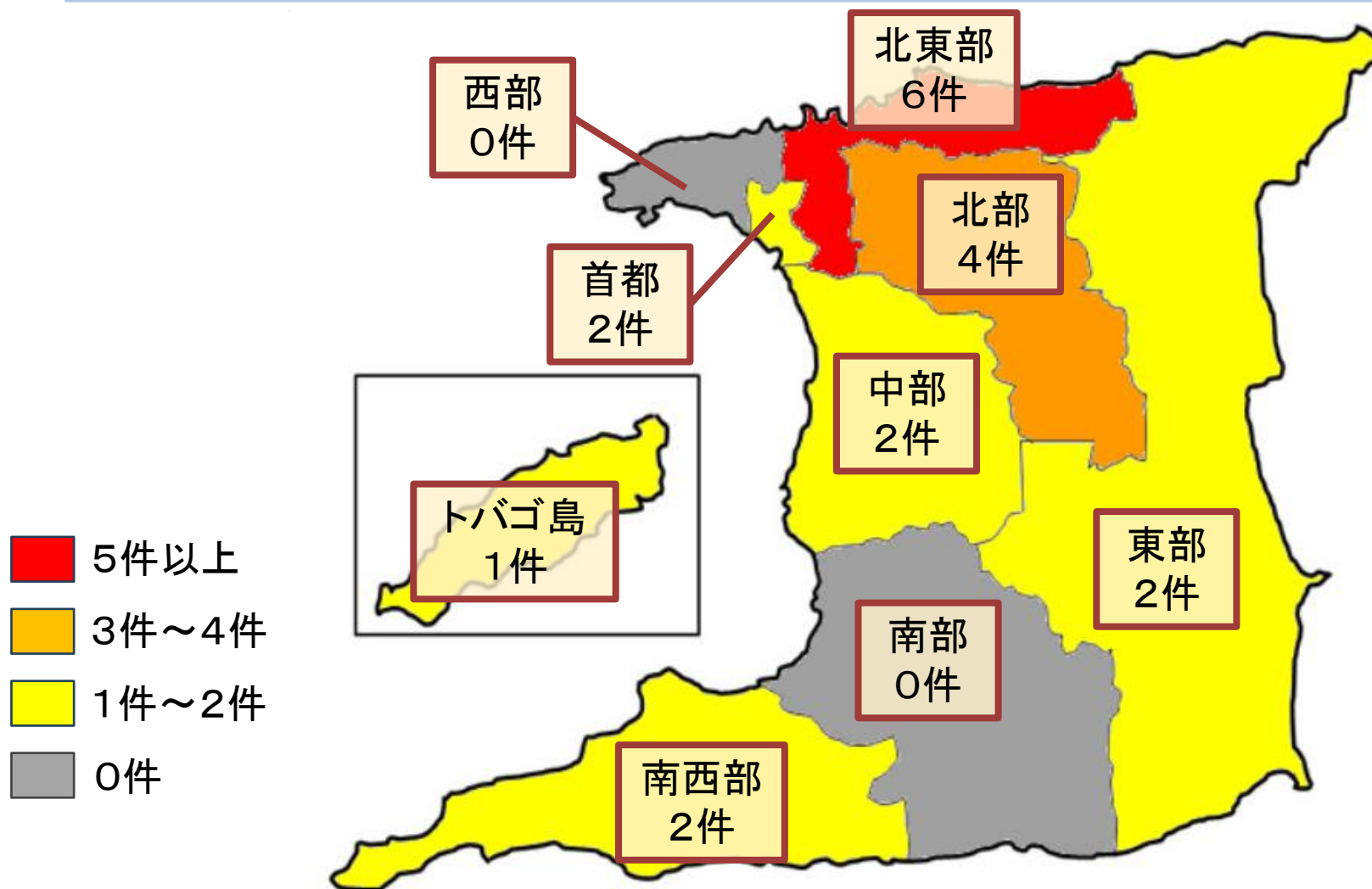


67%

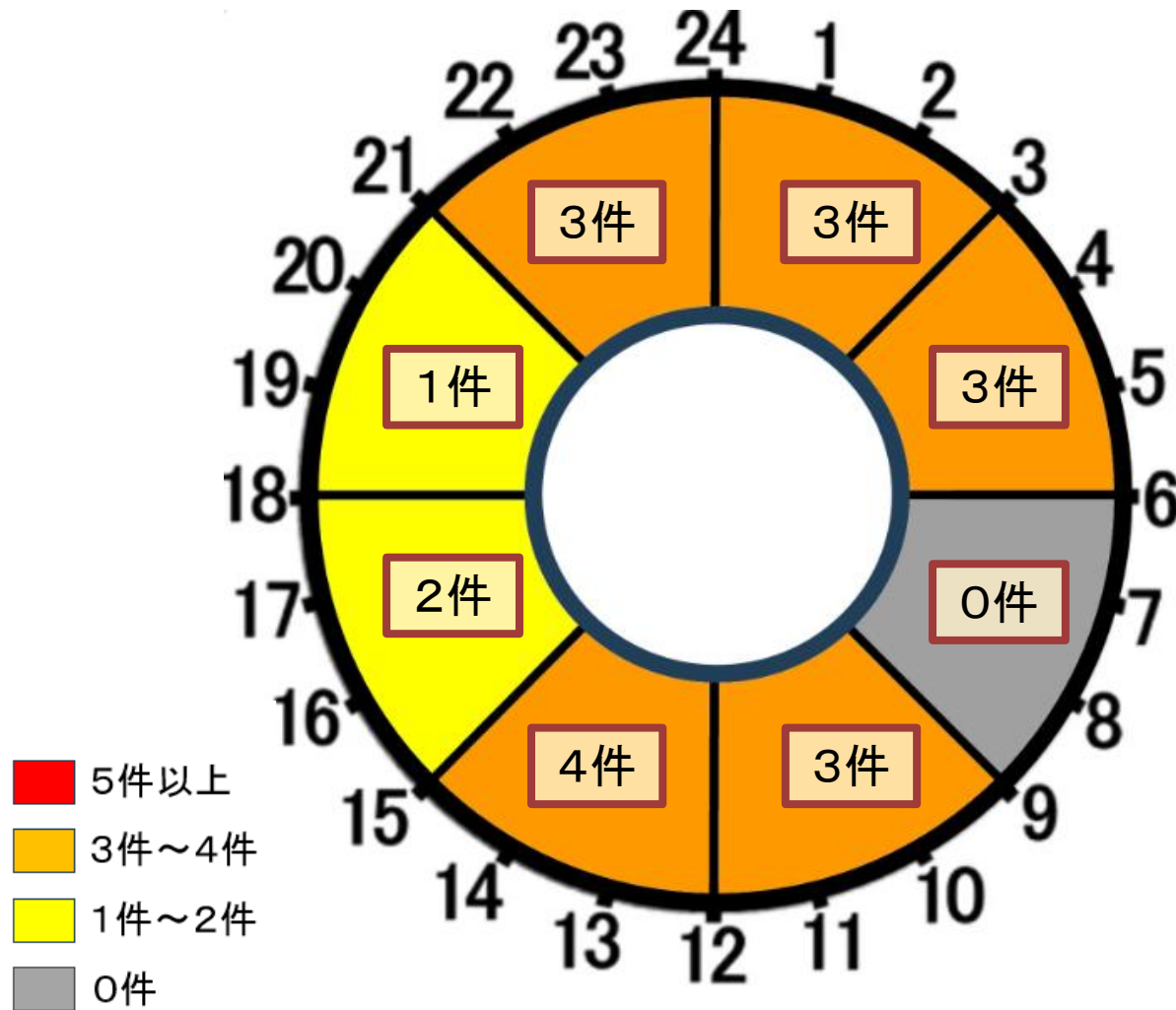
殺人・強盗事案の67%
で銃器が使用されている

公共の場での発砲事案も発生。周囲の状況に対する最大限の警戒が必須。

トリニダード・トバゴ警察方面別 殺人事件発生件数状況（2026年9月）

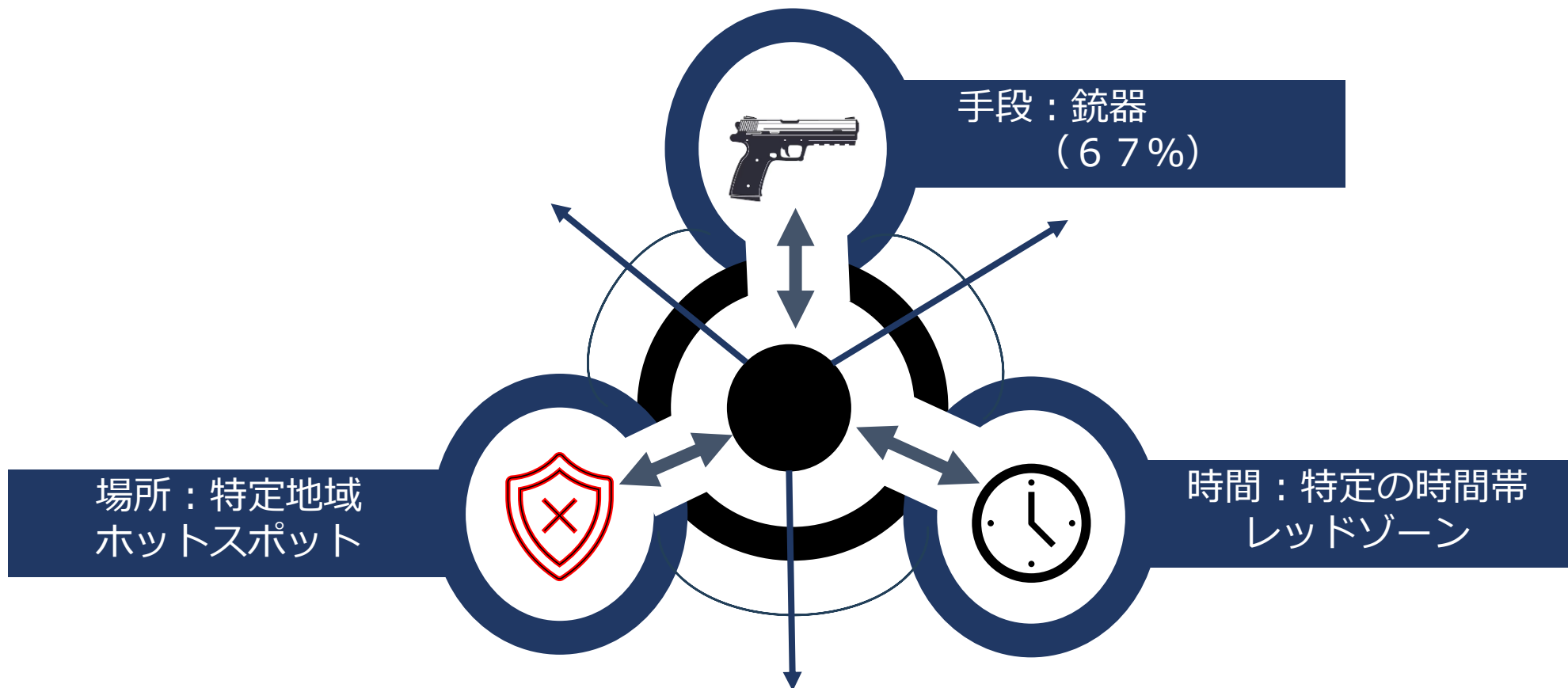


時間帯別殺人事件発生件数（2026年9月）



発生時間帯の傾向を見ると、12時から24時にかけての昼間後半～夜間帯（各枠2～4件）に広く分布して発生しています。特に18時以降の夜間帯および深夜（0時～6時）での発生も依然として確認されており、日没後の移動や不特定多数が集まる場所への滞在には十分な注意が必要です。

危険は予測可能である



単月での発生件数には増減が見られるものの、『銃器の使用(67%)』『夜間・夕方帯の集中』『特定地域(北東部等)での多発』といった犯罪の発生構造は明確です。危険が予測される時間帯や地域のパターンを把握し、事前の回避行動を徹底することが被害防止の基本となります。

安全対策の基本的心構え

1	目立たない 犯罪者やテロリストは、標的を選ぶ際にまずは目立つ人物に目を付ける傾向があります。
2	行動を予知されない 行動のパターン化は、犯罪者、テロリストなどに攻撃計画を立てやすくします。
3	用心を怠らない 家族全員、組織全体で気持ちを引き締める機会を定期的に持つことが必要です。

